

2009年度 学期 後期	曜日・校時 月・4	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	生体の機能(感覚から脳へ) Basic Human Physiology (From Sensory Organs to Central Nervous System)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等)	全学部	科目分類 人間科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 澄川 耕二 / sumikawa@nagasaki-u.ac.jp / 長崎大学病院麻酔科教授室 / 7370 (819-7370) / 火曜日 9:00-12:00			
担当教員(オムニバス科目等)	高橋晴雄 / htak0831@nagasaki-u.ac.jp / 耳鼻咽喉科教授室 / 7349 (819-7349) / メールのみ 北岡 隆 / tkitaoka@nagasaki-u.ac.jp / 眼科教授室 / 7344 (819-7344) / 月曜日 9:00-10:00 隈上秀高/kumagami@nagasaki-u.ac.jp / 耳鼻咽喉科教授室 / 7349 (819-7349) / メールのみ		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 人は、「聞く」「見る」「痛い」などの感覚を通して、外界からの情報を得ている。本授業では、そういった感覚を受け取れる感覚器の「しきみ」と「働き」や、最終的にその感覚を統合する脳との関係を理解してもらいたい。また、そういった感覚が失われたときの障害による影響－ハンディキャップ－の対策や、過剰な感覚－痛み－が及ぼす影響へのケアについても理解してもらいたい。 授業方法: 教科書は用いず、授業計画に沿ったプリントや資料を配布する。参考文献は適宜紹介する。 授業到達目標: ヒトが生きていく上での感覚とそれを統合する脳との関係の重要性を理解する。また感覚が失われたことによるハンディキャップや過剰な感覚に対するケアの基礎ができることを目標とする。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) ヒトの五感のしきみと機能を順次解説し、それが失われたとき(ハンディキャップ)や過剰な状態のケアについて説明する。 第1回 人はどのように音や音楽を聴くか? 第2回 聞こえが悪いと何が起こるか? 第3回 におい、味がなくなると人はどうなるのか? 第4回 体のバランス調節のしきみと運動機能 第5回 体のバランスとその障害 第6回 眼のしきみと働き(1)－目はカメラに似ている。コンタクトレンズ使っても大丈夫?－ 第7回 眼のしきみと働き(2)－目にもカメラと同じフィルムがある－ 第8回 眼のしきみと働き(3)－目にもカメラと同じレンズがある－ レンズ交換可能? 第9回 眼と障害－見えなくなる病気はやっばり恐ろしい－ 第10回 ロービジョン－眼のハンディキャップ－どうしたらより良い日常生活が送れるか? 第11回 痛みの心理学的側面 第12回 痛みを感じる神経系のしきみ 第13回 痛みを和らげ治療する方法 第14回 癌の痛みと緩和ケア 第15回 終末期医療(ターミナルケア)を考える			
キーワード	目とカメラ、ロービジョンケア、聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚、痛みのしきみ、終末期医療		
教科書・教材・参考書	参考文献は適宜紹介		
成績評価の方法・基準等	レポート(60%)と授業への貢献度(40%)で評価する。		
受講要件(履修条件)	原則として全回出席しなければ単位は成立しない。ただしやむを得ず、正当な理由で欠席する場合は証明書もしくは理由書を提出すること。		
本科目の位置づけ / 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			